

レールがボロボロに！

進む安全崩壊—外注化・融合化撤回を

レールがボロボロになっています。写真は蘇我駅ホームから見た線路の状態です。シェリング（亀裂）や剥離がいくつも見られます。放置すればレール破断から脱線にもつながりかねず、重大な安全問題です。

レール交換実現した安全運転闘争

動労千葉は05、06年、レール破断が続発する中で自主的に運転速度を落とす安全運転闘争を闘い、大規模なレール交換を実現させました。会社は「安全上問題ない」と言い続け、「違



JR蘇我駅ホームから見えるレールの状況。剥離やシェリングがいくつも見られる。1番線がとくにひどく、6番線でも散見される。

法争議」だと多くの組合員を処分しました。しかし、動労千葉の闘いは大きな反響をおこし、社会的支持を広く集めました。会社も団体交渉では危険性を否定し続けても、実際には安全上極めて危険な状態だと認めざるを得なくなりました。そして、レールの大規模な交換が実現したのです。

外注化・融合化を撤回しろ！

この闘いから20年。再びレールがボロボロなまま放置されています。根本的な原因は鉄道業務の全面的な外注化です。保線区・保線管理所は外注化時に6分の1にまで削減され、いまやJRがまったく関与しない線区が次々に拡大されています。

会社は、「センサーなどで異常を検知するから現場の技術力や経験など必要ない」と言わんばかりです。しかし、このレールの現状は何なのか？ 完全に破綻しています。「安全など二の次」なのです。

会社は今年、京葉車両センターでの機能保全業務外注化、人事・賃金制度改革、組織再編を強行し、さらなる外注化、業務融合化を進めようとしています。それは安全をさらに崩壊させます。

今こそ職場に闘う労働組合を取り戻そう。それが会社の攻撃への最大の反撃です。